

藻類が

人類の未来を救う

2012 年
7 月 10 日（木）～9 月 23 日（日）

会場：北海道大学総合博物館
1F 知の交流コーナー・3F 企画展示室

開 館：9：30～16：30
休 館：月曜日、月曜日が祝日の場合は翌日
9 月 9 日（日）は臨時休館
8 月 6 日（月）は臨時開館

入場無料

主 催：北海道大学総合博物館

共 催：日本藻類学会

協 力：釧路市教育委員会 / 千葉県立中央博物館分館・海の博物館 / 筑波大学大学院生命環境系 環境・生物多様性研究室 /
ナショナルバイオリソースプロジェクト・藻類 / 日本海藻協会 / (株) 知床ダイビング企画

後 援：NPO 北海道こんぶ研究会 / 札幌ヤクルト販売株式会社

藻類が人類の未来を救う



アサクサノリ



縞状鉄鉾



カラギーナン原藻の養殖（マレーシア）



オイル産生藻

藻類（そうい）とは、体のつくりが比較的単純な、様々な光合成生物の総称です。一部例外もありますが、その多くは、光の豊富な浅い水中で生活しています。そのため、われわれ人類の活動による水質悪化や、埋め立てによる生育地の消失などにより、多くの種が絶滅の危機に瀕しています。阿寒湖から今回特別に借用して生体展示をするマリモや、海苔の代表格のようなアサクサノリも、環境省のレッドデータに掲載されている絶滅危惧種です。



マリモ（阿寒湖）

しかし地球の歴史を見ると、むしろ藻類が地球環境を激変させてきたことがわかります。大量の酸素を放出した太古の藻類は、地球の大気組成を変質させて、その後の生物の進化の方向に大きな影響を与えました。同時に、鉄や石油といった、現代文明を支える資源をも生み出してきました。現在も、コンブやワカメのようにそのまま食用にされるものだけでなく、生活の身近なところや、意外なところで、藻類を原料としたものが使われています。石油系オイルを産生する藻類を利用して、石油枯渇問題と二酸化炭素排出問題、さらに污水处理までもを同時に解決する、夢のような研究も進んでいます。

札幌農学校時代のコンブ研究に始まる、藻類研究の長い歴史を持つ北海道大学は、世界的な藻類研究拠点のひとつです。当企画展では、今年60周年を迎える日本藻類学会との共催で、われわれ人類と藻類との関わりを紹介します。

●川嶋昭二先生海藻画展

道内各地の水産試験場長を歴任。実地に根ざした観察眼に定評のある川嶋昭二博士の海藻画、全62点を一同に展示します。

●関勝則氏写真展

知床を拠点に活躍するプロダイバー、関勝則氏の水中写真。藻類を中心に20点を展示します。

関連セミナー（入場無料・予約不要）

7月15日（日） 16:00-18:00

日本藻類学会 第36回大会 公開講演会

コンブとマリモ - 北海道の藻類の話

「北海道におけるコンブ類研究」

四ツ倉 典滋（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター）

「昆布のうま味 - 味わって食べることの意義」

二宮 くみ子（NPO うま味インフォメーションセンター）

「阿寒湖におけるマリモの多様な生態と生育環境」

若菜 勇（釧路市教育委員会マリモ研究室）

●会場：北海道大学学术交流会館 講堂

8月11日（土） 13:30-15:30

土曜市民セミナー

「マリモはなぜ阿寒湖で丸くなるのか-偶然の重なりがもたらす生物の球化現象」

若菜 勇（釧路市教育委員会マリモ研究室）

●会場：北海道大学総合博物館「知の交流」コーナー

9月8日（土） 13:30-15:30

土曜市民セミナー

「私の藻食論-海藻を食べて健康になろう」

舘脇 正和（北海道大学名誉教授）

●会場：北海道大学総合博物館「知の交流」コーナー

北海道大学総合博物館

お問い合わせ 〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目

電話 011-706-2658 FAX 011-706-4029

E-mail: museum-jimu@museum.hokudai.ac.jp

http://www.museum.hokudai.ac.jp